

叱り方のコツ

* 「叱る」と「怒る」の違い *

「叱る」は第1次感情、「怒る」は第2次感情といわれています。

例えば、こんなことはありませんか？

子どもが飛び出して、車にひかれそうになった。この時、最初の思いとしてあるのは「怪我をしてしまったらどうしよう……。悲しい。」という『心配』『困惑』『悲しみ』といった第1次感情のはずです。しかし、実際に目に見える形となって現れたのは、「なんで飛び出したの！ダメでしょ！」といった第2次感情である『怒り』だった。



「叱る」とは、この第1次感情を相手に伝え、相手に反省を促すことです。

〇〇が、けがをしたら、悲しいよ。
今度道路に出るときは、左右を確認しようね。



* 叱り方のポイント *

①間違っただ行動に対し真剣に叱り、相手を責めない

・あなたのことが嫌いなのではなく、あなたの「行動」が嫌であることを伝えましょう。

「事実・結果・行動」に対して叱り、「人格・性格・能力」は否定しません。

②ダメな理由とリクエストを明確に伝える

・「ちゃんと」「しっかり」などあいまいな表現だと、結局どうしたらよいかわからない場合があります。具体的にどうしたらよいかを伝えましょう。

③気分や感情に左右されずに

・自分の機嫌によって叱ったり、叱らなかつたりだと子ども側も混乱してしまいます。

場合によっては、行動の善し悪しではなく、親の顔色を窺って行動するようになってしまう可能性が……

④穏当な表現、態度、言葉遣いで

・「なんで!」「どうして!」等責めるような口調や、「絶対」「いつも」のような強い表現は避けましょう。